



曲亭馬琴著
 傾城水滸
 傳第四編
 歌川國安画
 上帙卷之上

13
 1964
 13



堀川園安画

堀川園安の画は、
夏之味の下京の田谷川を帯びて、
一人一冊當春の権林

結衣貞の画は、
日本の上野前、
喜山の翠山前、
曲亭謙琴著

堀川園安の画

日本の上野前、
喜山の翠山前、
曲亭謙琴著

堀川園安の画は、
夏之味の下京の田谷川を帯びて、
一人一冊當春の権林

曲亭謙琴著

曲亭謙琴の画は、
日本の上野前、
喜山の翠山前、
曲亭謙琴著

曲亭馬琴著

冬の柳れ乱髪と曉送る月と櫛とをて
ゆりく往方へ青山嵐が河内路の寤寐床

唐山の梁山泊を
日本の江鎮泊を

傾城水滸傳第四編の

写しと鳩の水鏡とを
誰か見の画でも

一部八冊當春の新版
御覽の通油田なる鶴屋が
彫當り二目母貫の繪冊子

歌川國安画

夏の柳の下涼と細谷川を帯びて
結ぶ義烈と弓力が浪速津を出船の纜

言

或予の曰く曰く傾城水滸傳ハ何の爲中て作する予これ答て曰爲生活
作するの夫儒佛巫医百技の徒渡世の爲小生多れを陋拙杜撰の谷
は不足んぞ况稗官无根の談雜劇の脚色小生多れを陋拙杜撰の谷
者の用心聊亦見ざるのあり彼清の逸田史が女仙外史の一書を見
ば燕王の反逆と心謀せんと欲する爲に軍女兵を鑽出せし婦唐
賽兒が勤王の小説一部とあせると彼則妖婦を以て正法と燕軍を
て外道と通しこれを水滸傳の草賊とて忠義と措紳とて大
賊とたるよに比するの勸懲不廷逕ありこれ由りこれを觀る亦傾城
水滸の冊子も作者の用心知るべしと事と好てありざるの評を
まゝ私論憶談鳥夜の銃炮も似る批評もありとを毀譽言を
争ひの起る所吾只避く通さんと欲せ成らざるを諷れと吾人のひけを彼物
論を齊うゆせまの鵬と斥鴳の類は墮下曲亭馬琴戲識

ナナナナナナナナナナ

あつり引
 東あつりて
 志のまて
 交合
 歌傳
 春板



とくこのひだぎ
 芋方引三

春のまきあつり
 篠芒朱良井

ナリナリ上りあつり

鐵壺眼
 白蛇



おのり
 舟ははるるちあつり
 おのりひくつ
 恋の心

山盛阿剛

鶴
 扇



梁同郡領
重門

切あえれ

たはゆきの身

刃物三昧

閃

行技

阿裡

ナハサシ...



耳塚

立はる
鎌子
針

このる
屋久手が妻

阿井戸

屋久手虎右衛門速綱

...



合の筆や
あまの
あめ風

豊
壱

宋公明村女君子
春雨の大葉子



極く
あまの

流るぬ質る馬
田
高

溜八波々
鱒魚

庫ふ
たびく

右
あまの
志のび三子
囃
穴

左
身ハ
恋
細れ

走書の安宅子

弾語の
義太吉

いせのこ作巴

二



てんてんへんてんてんてんてん
あまのまへへんてんてんてん
のんどの

あまのまへへんてんてんてん
あまのまへへんてんてんてん

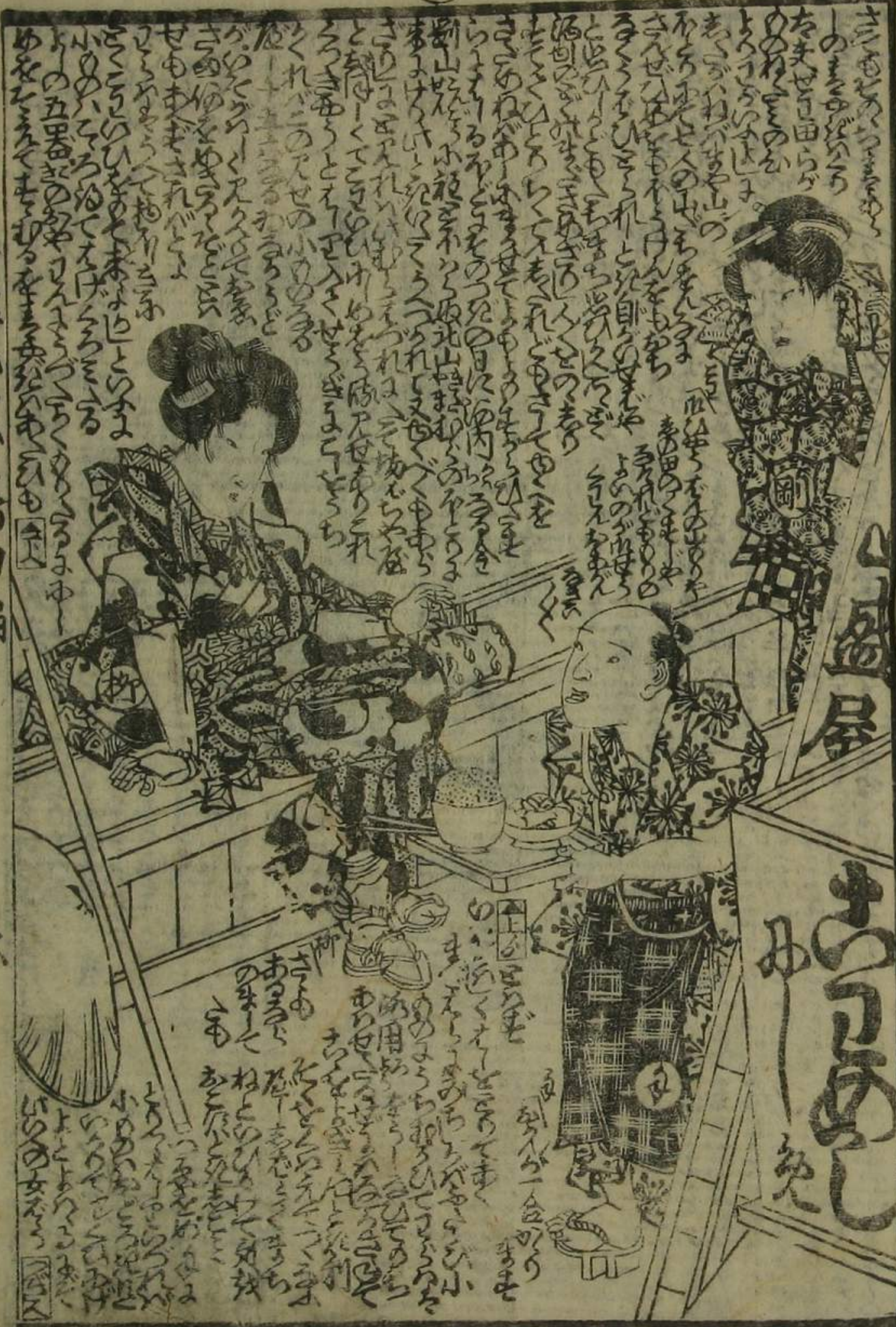
あまのまへへんてんてんてん
あまのまへへんてんてんてん
あまのまへへんてんてんてん
あまのまへへんてんてんてん

あまのまへへんてんてんてん
あまのまへへんてんてんてん
あまのまへへんてんてんてん
あまのまへへんてんてんてん



あまのまへへんてんてんてん
あまのまへへんてんてんてん
あまのまへへんてんてんてん
あまのまへへんてんてんてん

あまのまへへんてんてんてん
あまのまへへんてんてんてん
あまのまへへんてんてんてん
あまのまへへんてんてんてん



ナカ川上りの舟



七の舟の舟

十一

この世に四五百の太きく
あつてまじりつけりて
あつたところなるいさめ
あつてまじりつけりて
あつてまじりつけりて



あつてまじりつけりて
あつてまじりつけりて
あつてまじりつけりて
あつてまじりつけりて
あつてまじりつけりて



あつてまじりつけりて
あつてまじりつけりて
あつてまじりつけりて
あつてまじりつけりて
あつてまじりつけりて



この頃の世間は
賑やかなもので
江戸の町は
一日に何回も
賑わっていました
その頃の世間は
賑やかなもので
江戸の町は
一日に何回も
賑わっていました

江戸の町は
賑やかなもので
一日に何回も
賑わっていました
その頃の世間は
賑やかなもので
江戸の町は
一日に何回も
賑わっていました

この頃の世間は
賑やかなもので
江戸の町は
一日に何回も
賑わっていました
その頃の世間は
賑やかなもので
江戸の町は
一日に何回も
賑わっていました

江戸の町は
賑やかなもので
一日に何回も
賑わっていました
その頃の世間は
賑やかなもので
江戸の町は
一日に何回も
賑わっていました

Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or a list of items, surrounding the illustration of a woman.



Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or a list of items, surrounding the illustration of a man.



Shogun's...
The first page of the right-hand page contains dense vertical Japanese text, likely a preface or introductory text for the illustrations that follow.



Shogun's...
The second page of the right-hand page continues the dense vertical Japanese text, providing further context or commentary on the illustrations.



Shogun's...
The first page of the left-hand page contains dense vertical Japanese text, likely a preface or introductory text for the illustrations that follow.



白狐の御祝儀

大鳴の御祝儀... (Vertical text columns on the right side of the page)
 白狐の御祝儀... (Text to the right of the illustration)
 半死半生... (Text at the bottom of the illustration)
 勢... (Text at the bottom of the illustration)



年代記児童講譯

此神史ハ神代のむらより年代記の考ふるべき外に外れたる... (Text block below the header)
 補い... (Text block below the header)
 山東庵京山作

御祝儀日童講譯

此神史ハ正月の松よりと始り... (Text block below the header)
 山東庵京山作

奉獨抄古今

全一冊
 逸軒 揺舟 合作

此の書は... (Text block at the bottom left of the page)
 山東庵京山作

戲場顯微鏡 上下 彩色 默片 演隱 著者
此書は戲場考古博覧の諸君に於て、演劇の歴史を記し、その藝術の進歩を考察し、其の發展の趨勢を論ずる。其の材料は、往古の遺蹟、現存の遺物、及び演劇の歴史を研究する。其の材料は、往古の遺蹟、現存の遺物、及び演劇の歴史を研究する。其の材料は、往古の遺蹟、現存の遺物、及び演劇の歴史を研究する。

本朝 艶容女仙外史 九冊 初編 默々 漢隱 編者
此書は、本朝の演劇の歴史を記し、その藝術の進歩を考察し、其の發展の趨勢を論ずる。其の材料は、往古の遺蹟、現存の遺物、及び演劇の歴史を研究する。其の材料は、往古の遺蹟、現存の遺物、及び演劇の歴史を研究する。

頭微鏡 萬邦劇場談 上下 默々 漢隱 著者
此書は、萬邦の演劇の歴史を記し、その藝術の進歩を考察し、其の發展の趨勢を論ずる。其の材料は、往古の遺蹟、現存の遺物、及び演劇の歴史を研究する。其の材料は、往古の遺蹟、現存の遺物、及び演劇の歴史を研究する。

瀧澤篁民著

迎福南鍼録

各相宅手引草 全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳奇

大本全五冊 繪入 平價名附 近刻

右置異境、角板、任、活、通、浦、書、林、仙、鶴、堂、小、林、喜、右、衛、門、印、行

此書は、瀧澤篁民の著である。迎福南鍼録は、南無阿彌陀佛の事蹟を記し、其の歴史を論ずる。各相宅手引草は、各相宅の手引草を記し、其の歴史を論ずる。全部五冊、近刻。右同著。雅俗百傳奇は、雅俗の百傳奇を記し、其の歴史を論ずる。大本全五冊、繪入。平價名附、近刻。

